

## 学生生活実態調査の実施、公表について

【ご意見・ご要望】(投稿日:2025 年 9 月 14 日)

京都大学では、学生生活実態調査について「京都大学では学部と大学院に在籍する学生を対象に、学生生活を把握し、キャンパス全般の環境整備に役立てるため、昭和 28 年以降「学生生活実態調査」を実施しています。」としています(京都大学 HP より引用)。しかしながら、HP にて公表されている最新の報告書は H23 年度のものであり、京都大学附属図書館に所蔵されている冊子についても、最新は H27 年度のものとなっており、現在まで 10 年もの間、報告書が公表されていないと認識しています。学生生活実態調査は、京都大学の学生の暮らしぶりについて、時代の推移と比較する上で定期的に実施されるべきものであり、10 年間にわたり実施、公表がなされていない状況は異常であると考えます。たとえば、東京大学では、学生生活実態調査の結果を HP にて最新 2023 年のものまで公表しています。

つきましては、

- ・学生生活実態調査が 10 年間にわたって実施、公表されていないのはなぜか？
- ・今後、学生生活実態調査を実施、公表する予定はあるのか？

について回答をいただきたく思います。

【回答】(回答日:2025 年 10 月 22 日)

(回答部署:学務部)

ご指摘のように「学生生活実態調査」は学生からの要望なども踏まえ、現在実施しておりません。

一方、国レベルでは学修者本位の教育へ転換を図るとともに、各大学が教育成果や教学に係る

取組状況等の大学教育の質に関する情報を把握・公表していくことを目指して「全国学生調査」がこれまで試行されてきており、令和 7 年度から本格実施されることになりました。

- (1) 各大学が自大学の学生の実態や意識や他大学との比較分析を踏まえた教育改善に活用すること
- (2) 大学進学希望者やその保護者あるいは地域社会、産業界、海外の留学関係者等から、各大学における学生の学修成果や大学全体の教育成果にこそ関心を持ってもらい、大学に対する理解を深めてもらうこと
- (3) 国が今後の政策立案に際しての基礎資料として活用すること
- (4) 学生一人一人が「何を学び、身に付けることができたか」を振り返ることで今後の学修や大学生活をより充実したものにしてもらうことや、卒業後の社会における自らの姿を考える上での一つの契機とすること

本学でも上記の趣旨・目的や試行状況を見ながら検討をしてきました。

その状況を見極めた結果、学生みなさんの協力のもと本学は令和 6 年度末から参加することとし、公表日は未定ですが、調査結果の公表に向けて準備している段階です。

公表まで今しばらくお待ちください。